



指導案

それって本当？

1 学習のねらい

事実と意見や感想を区別し、目的や意図に応じて、事実と意見を区別して話したり書いたりすることができる。

2 番組活用にあたって

私たちが何気なく耳にする情報の中には、客観的な事実と主観的な思いや感想が混在しながら一つの情報として伝わってきます。例えば「あやしい人を見た」というのは、あたかも事実のような気がしてしまいますが、「あやしい」というのは伝える側の主観で、本当にあやしいかどうかは分からないのです。

同じように「らしい」という言葉も、人から聞いたことであって自分が確かめた事実とは異なります。このように普段なにげなく使っている言葉の中に、事実と意見とが混在していることに気づかせることが今回のねらいです。

自分で考え、判断する子を育てるためには、このように言葉に敏感になり、分析的に言葉に向かう学習も必要だと思います。番組では、「先生は宇宙人か」という疑問に対して、「自分で確認したこと」

「人から聞いたこと」「自分で考えたこと」の3つに分類する作業を通して、事実と意見とを区別するためにはどの言葉に着目すればいいかを示してくれています。情報を正しく読み取るためにも必要な力だと思います。

3 指導の流れ

① 「あやしい人を見た」という言葉を考えよう。どこが事実でどこが意見だろう。

- ・「見た」というのは、事実だろう。
- ・「あやしい」というのは、本当かどうか判断できないような気がする。意見かなあ。



② 情報が本当かどうか見分けるには、どうしたらいいのだろう。

1. 番組を視聴する。
2. scene04で動画を止めて、別紙のワークシートのカードの言葉を3つ（「自分で確認したこと」「人に聞いたこと」「自分の意見」）に分類してみる。
3. scene04から先を視聴する。
4. サトルたちの分類と自分たちの分類の違いを見つけ、なぜ違うのかを話し合う。
 - ・カードに書いてある言葉は、「事実」のような書き方をしている
 - ・語尾を省いて書いてあると「事実」のように感じてしまう
 - ・サトルたちの話を聞いていると「人から聞いたこと」ということが分かる
 - ・話をよく聞いていないと「事実」「意見」の区別がつかない
5. 佐倉統先生の話のポイントを整理しよう。
 - ・人間は、人の話を信じやすい。
 - ・人間の心は、自分たちに危険なことや不利なことに敏感に反応する。
 - ・本当かどうか確かめるためには、自分で確認することが大切



③ 「あやしい人を見た」は、「事実」か「意見」か考えよう。

- 「あやしい人を見たらしい」は、どうだろう。
- ・「人を見た」は、「自分で確認した」ことになる。
 - ・「あやしい」は、「自分の意見」ということになる。
 - ・自分で確認したことに、自分の意見を付け加えた情報ということになる。
 - ・「らしい」がつくと、「人から聞いた情報」ということになり、本当かどうかはかなりあやしい。